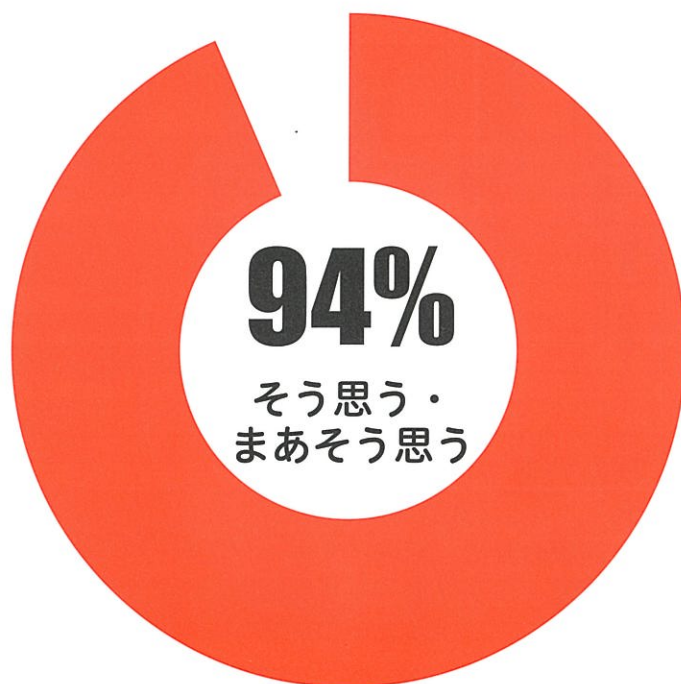


「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査(概要版)

秋田県生涯学習センターでは、秋田県内の全ての特別支援学校に在籍する高等部生徒の保護者、卒業後3年以内の卒業生の保護者の御協力をいただき、障害のある方の生涯学習（この場合は、主に学校以外での勉強やスポーツ、趣味、習い事などの意味）について令和元年にアンケート調査を実施しました。

今回、主な結果を概要版としてお知らせいたします。右のグラフのとおり、障害のある方の生涯学習の機会が必要だと考えている保護者の割合は94%となっており、非常に高い数字となっています。

このアンケート結果が、「共に生きる社会」になるために、一人一人が自分の立場で何ができるかを考えるきっかけとなれば幸いです。



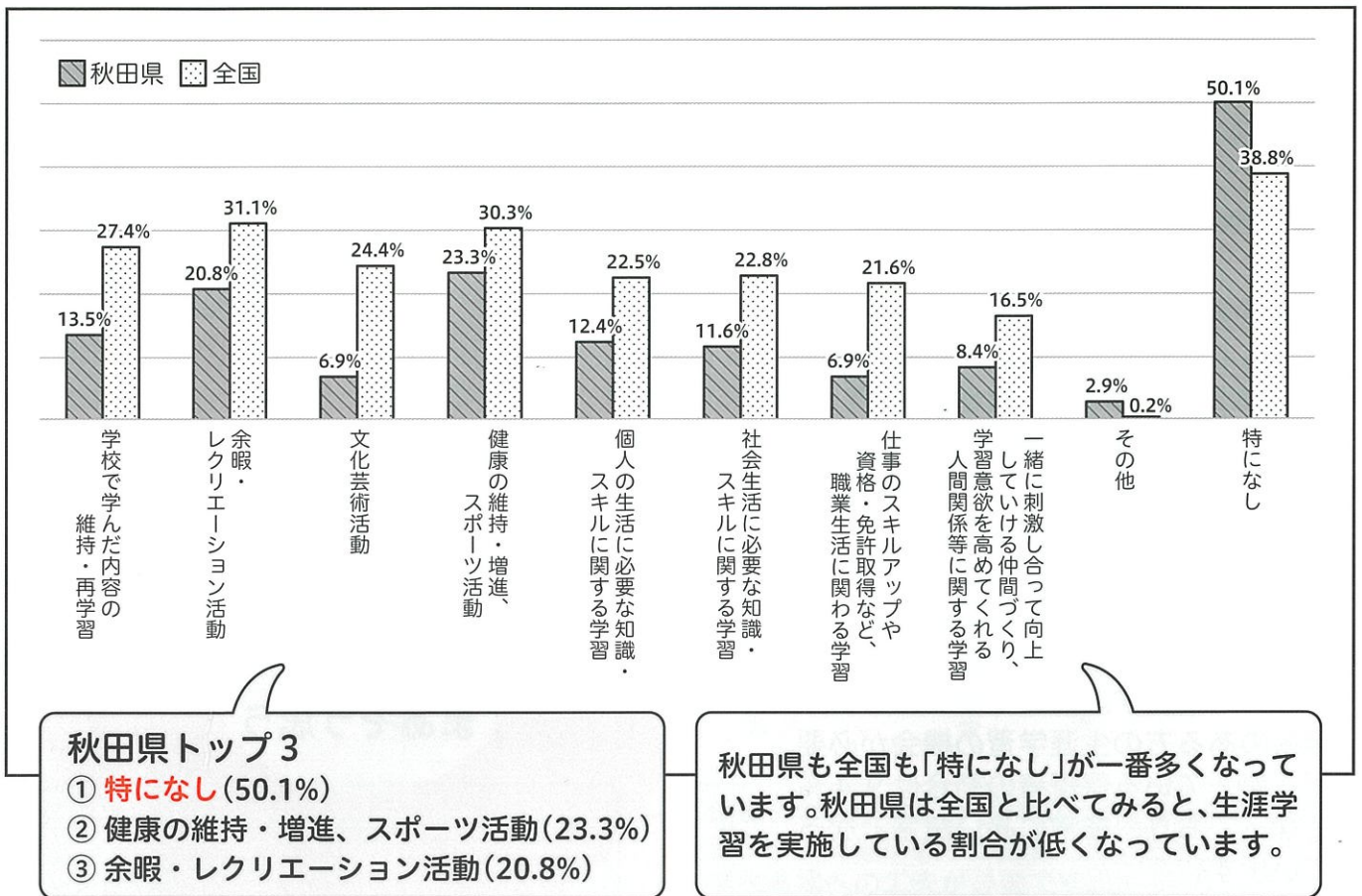
◎ 「共に生きる社会」になるために、障害のある方の生涯学習の機会が必要だと思いますか。

「障害者の生涯学習」に関するニーズ調査について

- ◆ 対象
 - ・ 特別支援学校高等部生徒の保護者
 - ・ 特別支援学校高等部卒業生（卒業後3年以内）の保護者
- ◆ 実施時期
 - ・ 令和元年9月上旬
- ◆ 回答数
 - ・ 684名（回収率56.4%）
- ◆ 比較した調査
 - ・ 文部科学省「学校卒業後の障害者が学習活動に参加する際の阻害要因・促進要因等に関する調査研究」
 - 平成30年11月実施・無記名式のインターネット調査
 - 4,650名が回答

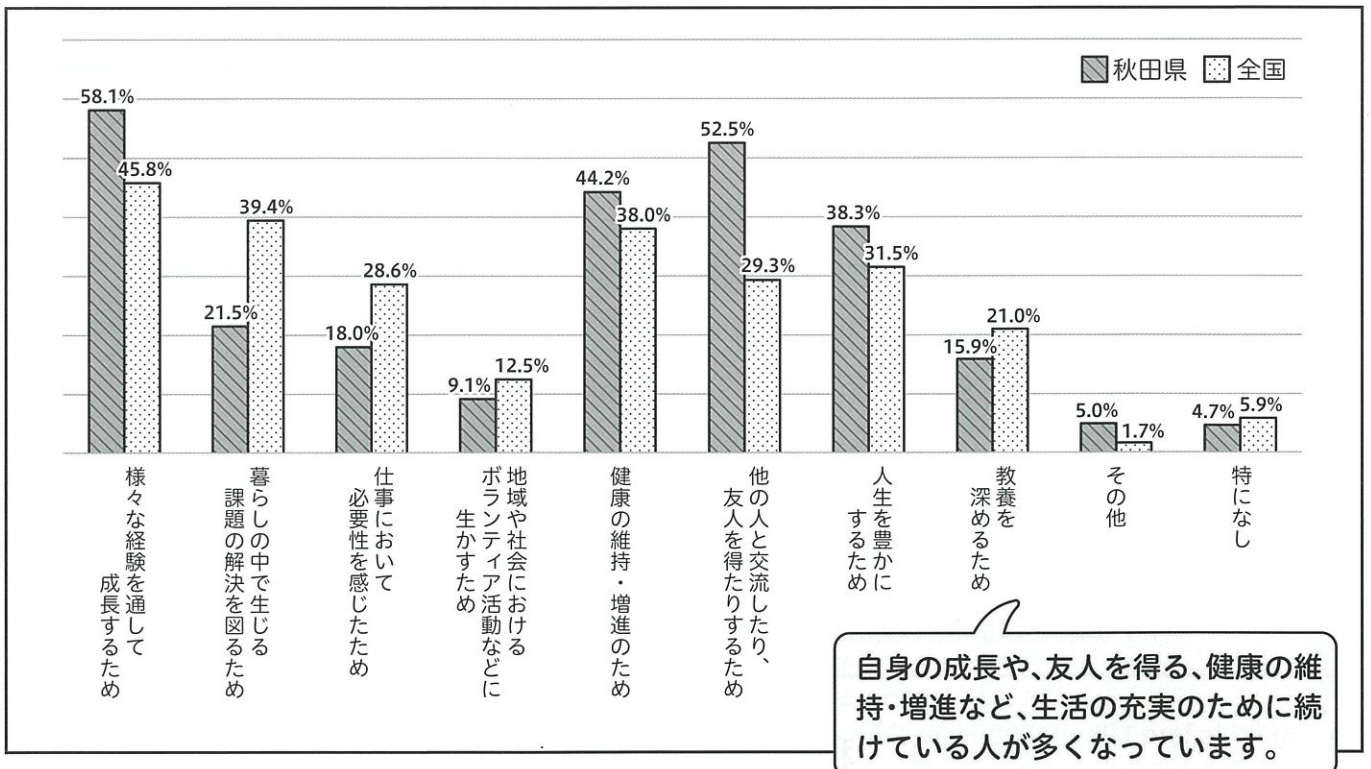
■生涯学習の経験

お子さんが、生涯学習で続けていることは何ですか。(複数回答可)



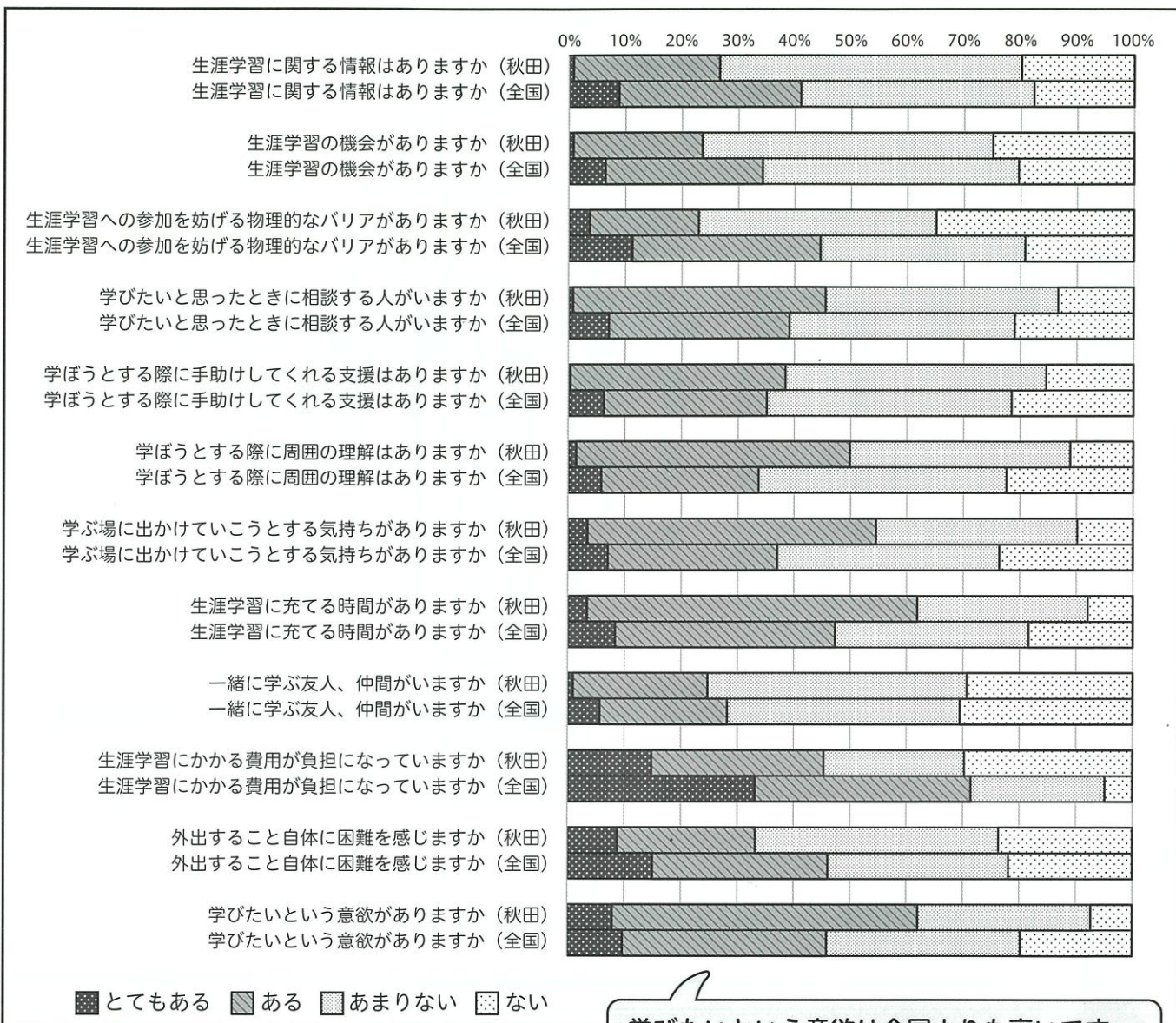
■生涯学習を実施した理由

お子さんが、生涯学習を続けている理由は何ですか。(複数回答可)



生涯学習に関する課題

お子さんの生涯学習について、あてはまるものを一つ選んでください。



学びたいという意欲は全国よりも高いです。全国よりも生涯学習に関して前向きな意見が多くなっています。

物理的バリア (記述で多かったもの)

① トイレ (ベッド含む)

- ・多目的トイレの有無もだが、洋式トイレがあるといい
- ・大人用折りたたみベッドがほしい

② 段 差

- ・階段の段差が困る

③ 交通手段

- ・公共の交通手段がない
- ・バス停などの交通起点までのタクシー代等の支援がほしい

その他に、不安定になった時にクールダウンできる場所がほしい、物理的なものではなく、周りから理解を得られないなどの意見がありました。

外出時の困難 (記述から)

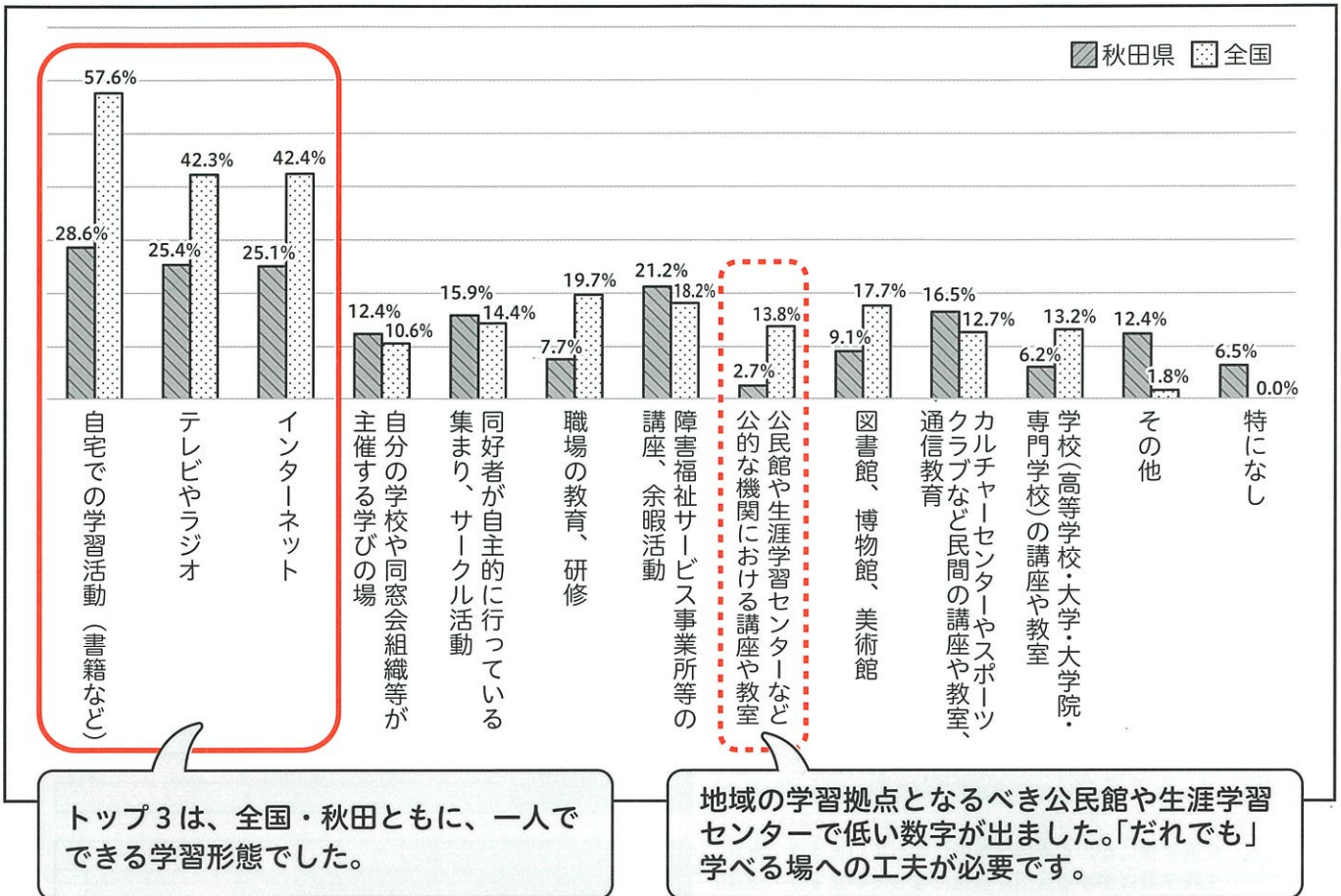
物理的バリアで記述されていたものに加え、次のようなものが多く書かれていました。

○保護者の負担

- ・常に保護者の付き添いが必要
- ・大声を出すなど、予測できない行動を起こす時がある
- ・私自身、体力に自信がなくなってきた
- ・親も本人も高齢になった時が心配
- ・とにかく家から遠い、何もかも
- ・周りの目が気になる
- ・迷惑をかけるのではとってしまう
- ・周囲の理解不足

■学習形態

お子さんは、生涯学習をどのようにして続けていますか。(複数回答可)



■自由記述

障害のある方の生涯学習について御意見があればお書きください。



学習塾やスポーツ教室などで障害を理由に断られたことがあり、以来、障害者を対象としたイベント以外は行きづらくなっている。障害があっても学びたいことを学べる場が増えるとありがたいと思う。



田舎なので参加させたくても交通の便が悪く、いろいろ諦めたりすることが多いです。もっと地域ごとに参加しやすいのがあるといいのですが...



合理的配慮、特別支援という言葉を使わず、当たり前障害者と向き合える社会を築くことができればと思う。

ホームページもご覧ください！

<https://www.pref.akita.lg.jp/lifelong/>



秋田県生涯学習センター

検索

秋田県生涯学習センター

〒010-0955

秋田県秋田市山王中島町 1-1

TEL 018-865-1171

FAX 018-824-1799

E-mail sgcen002@mail2.pref.akita.jp